

2020年12月3日

人起点の空間価値創出を目指して 「働く」を実験する「worXlab(ワークスラボ)」を開設



【エアリーゾーニングソリューション】



【密回避ソリューション】



【フレキシブルゾーニングソリューション】



【短時間リフレッシュソリューション】

パナソニック株式会社は、空間ソリューション事業推進の一環としてニューノーマル時代のワークプレイス創造に向け「『働く』を実験する」をテーマとしたライブオフィス「worXlab(ワークスラボ)」を、パナソニック東京汐留ビルにて2020年12月に開設します。「worXlab」は、オフィスワーカーがいきいきと健やかに働けるウェルネス環境を提供し続けることで企業の持続的発展に貢献する、人起点の空間価値創出を目指しています。また、「worXlab」はさまざまなパートナーとの共創の場としても活用し、ワークプレイス創造活動の加速を狙います。

近年の働き方改革に加え、COVID-19発生後は新しいワークスタイルに対応したオフィスの形が模索されています。従来は効率性が重視され、執務ゾーンを大きく確保することがオフィスの主流でした。今後は、在宅勤務やサテライトオフィスでの勤務、ワーケーションなど働き方の多様化やワークプレイスの分散化が定着することを前提としたうえで、オフィスワーカーの安全性確保、出社するメリットや創造性と生産性の両立等が重視されていくと想定しています。

パナソニックは、これまで大阪府や広島県の自社オフィスで実証実験を行い知見を蓄積してきました。COVID-19発生後の開設となる「worXlab」では、密回避ソリューションをはじめとして、センターオフィスにおいて特に重要となる4つのテーマ(安全・交流・集中・回復)に基づいたソリューションをオフィスフロアに点在させ、多様化する働き方をサポートします。また、同時に開設する社員向けサテライトオフィス(神奈川県:横浜)とのシームレスな労働環境を実現します。

今回改修した約800 m²のオフィスフロアには、200個以上のセンサデバイスを実装しています。バイタルや位置情報、会話量などのヒトデータを軸に、空間のCO₂濃度や湿度などの環境データ、機器の稼働状況などの設備データを取得・解析し、サイネージやスマートフォンでの可視化や設備運用へのフィードバックを行うことで人起点の空間最適化を行うとともに、効率的な施設管理・運営に活用します。

パナソニックは、「worXlab」を通して、これからのアップデート型ワークプレイス空間の実現を目指していきます。

<主な特長>

1. 改修工事で可能なニューノーマル時代を見据えた新しい空気環境への取り組み
2. テクノロジーを駆使し、安全・交流・集中・回復の4つのテーマで新しい働き方をサポート
3. データ活用による、人起点のアップデート型ワークプレイス空間を検証

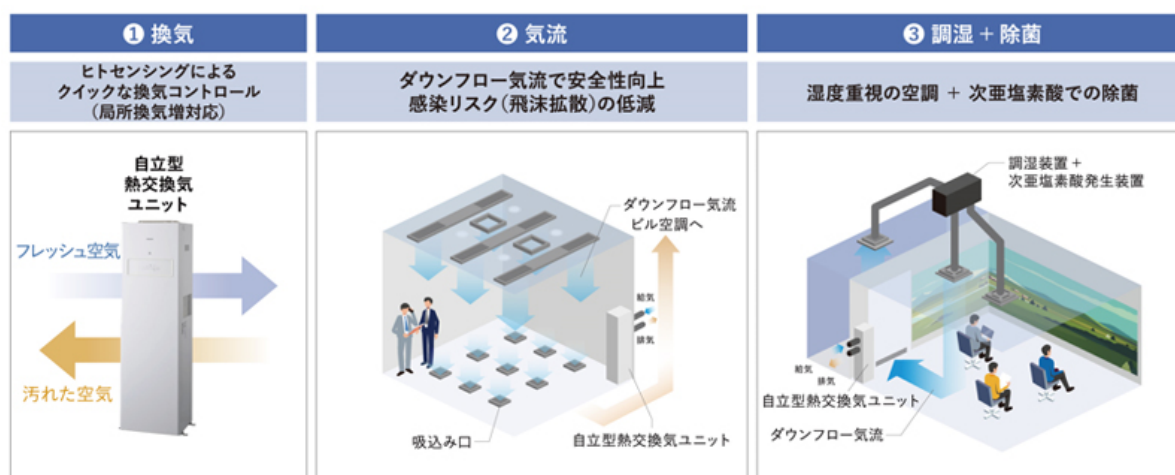
【お問い合わせ先】

ライフソリューションズ社 マーケティング本部 空間ソリューション事業推進室 マーケティング推進部
電話:06-6908-1131(代表 受付9:00~17:30)

【主な特長】

1. 改修工事で可能なニューノーマル時代を見据えた新しい空気環境への取り組み

- (1) 換気: 換気量増加ニーズに容易に対応し後付けできる自立型熱交換気ユニットを設置。ヒトセンシングにより、人数の増減に対してスピーディーに換気量を適正にします。
- (2) 気流: ダウンフロー気流により、気流を一方向に制御し感染リスクの低減を図ります。
- (3) 調湿+除菌: 湿度重視の空調に加え、次亜塩素酸での除菌を実施します。



2. テクノロジーを駆使し、安全・交流・集中・回復の4つのテーマで新しい働き方をサポート

- ・安全: 感染者リスク低減、エアリーゾーニング、密回避、空質管理などのソリューションを導入しオフィスワーカーの安全をサポートします。
- ・集中: 集中低下を検知し、光・気流・香りで刺激を与えて集中を持続させる集中持続サポートや、人の好みに合わせた環境を提供するフレキシブルゾーニングなどのソリューションを提供します。
- ・交流: 会議内容や進行に合わせて光・気流・音を制御する会議進行サポートソリューションなどを提供します。
- ・回復: 会議の合間などに光・気流・音・香り・映像で没入感のある環境をつくり、短時間でリフレッシュできるソリューションを提供します。

感染リスク低減
ソリューション



エアリーゾーニング
ソリューション



密回避
ソリューション



会議サポート
ソリューション



フレキシブルゾーニング
ソリューション



集中持続サポート
ソリューション



短時間リフレッシュ
ソリューション



空質管理
ソリューション



3. データ活用による、人起点のアップデート型ワークプレイス空間を検証

・パナソニックの位置情報ソリューション「POSITUS(ポジタス)」をはじめ、200個以上のセンサデバイスを実装します。それにより、人の位置・動線・バイタル・表情などのヒトデータ、温度・湿度・CO₂などの環境データ、照明・空調・電力などの設備データを蓄積します。取得したデータの解析により、各ソリューションのアップデート、あるいは人の嗜好に合わせたよりパーソナルな環境のコントロールを行います。また、データの積み重ねにより、人の状態を正確に推定し、設備状態の異常を予測することで、新たなソリューション提案へつなげていきます。

【データ活用の考え方】



○サテライトオフィス

・通信環境や安全性・快適性を考慮した社員向けサテライトオフィス(120 m²)を開設(神奈川県:横浜)。



センターオフィスとのライブ感のあるつながりを4Kサイネージで実現



非接触の体温計測と社員証を利用したクラウド活用による入退・勤怠管理



仕事内容に応じて最適なワークスペースを選択



高度な空気の品質管理と、心地よい照明で快適さを実現



在宅ワークの課題を解決し、センターオフィス同等の機能を補完

- ミーティング機能
- セキュリティ
- プリント出力
- 集中ブース
- 勤怠管理
- ネットワーク環境

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。
商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。